

一三〇一ス専修

「専修大学」ホームページ http://www.senshu-u.ac.jp/

毎月1回15日発行 (定価一部90円) 発行所 専修大学広報課 101-8425 東京都千代田区東神田3-8-8 03-3265-5819(直)

主なニュース

- 2010年度学校法人専修大学補正予算
- 専大とともに 神田神保町探索「柏水堂」
- 教育研究振興協力資金募金寄付者芳名
- 【受験生特集】学生生活・ゼミ活動・留学/国際交流など
- 【石巻専修大学】4学生に「スポーツ勲功章」
- 北海道短大 ウィンターフェスティバルを開催

テレホンサービス (お知らせ・緊急連絡) 0180-994-994 本紙へのご意見をお聞かせください koho@acc.senshu-u.ac.jp



平成22年度卒業式・学位記授与式のご案内 日時: 3月22日(火)午前10時30分開会 会場: 日本武道館(千代田区北の丸公園) 次号は3月25日(金)発行予定です

映画『学校をつくろう』 学生たちもPR活動

2月19日 公開



日本テレビ「マイスタ」前で「左から遠藤豊哉さん(文4)、高橋和哉さん(ネット情報2)、センチ、児玉英明さん、菅沼康治さん(商2)

専修大学創立130周年記念映画『学校をつくろう』その時、若者たちは未来を見た(文部科学省選定)は、東京・有楽町スバル座などで2月19日(土)、いよいよロードショー公開される。本学創立者4人の学校づくりの情熱を、三浦貴大さん、柄本時生さんら次代を担う若手俳優がみずみずしく演じ、公開を前に話題を呼んでいる。同映画は広島県の三原市市民映画祭に出品が予定されている(3月21日上映)。今後、ほかの映画祭への参加も期待される。

明治の衣装着て TV局・新聞社へ

学生プロジェクトのメンバーは17人。生田・神田両キャンパスでは、公断断幕を掲げ「映画『学校をつくろう』をよろしくお配布コーナーが置かれ、プロジェクトの学生たちは「映画館へ足を運ぼう」と呼び掛けた。1月29日、全国ネット放送している日本テレビ情報番組「ズームイン!!サタデー」放送の「マイスタ」前にメンバー5人が明治初期の衣装などを着用して登場。ポスター、横断幕を掲げ「映画『学校をつくろう』をよろしくお配布コーナーが置かれ、プロジェクトの学生たちは「映画館へ足を運ぼう」と呼び掛けた。



インタビューを受ける学生プロジェクトメンバー=毎日新聞とうきょう支局で

代表の児玉英明さん(経済2)は昨年12月、神田キャンパスでの完成記念披露試写会でのこの映画を見て、創立者たちの高い志に感動。「130年もの歴史ある大学で学べること誇り」と同プロジェクトに「活動の中で、専大の料子ケットが配られていり」と同プロジェクトに「また、「専大生には無特徴は何か、専大プランなので、一人でも多くのド構築の必 学生に映画を見てほしい」と熱を込めて語る。

テンブル大学ジャパン校で 映画試写と トークイベント

2月4日にはテンブル大学 ジャパンキャンパス(東京都港区南麻布)で、明治と現代の留学についてトークイベントが開催され、映画の10分バージョンの試写(英語解説付き)が行われた(ハーバードクラブジャパン共催)。

試写のあと神山征二郎監督が講演。映画の製作にあたって創立者4人の当時の心情をどのように理解して描いたか、4人と現代の若者との違い、日米の学校教育や環境の違いなどを語った。



講演する神山監督

川崎市で試写会 市民ら1000人が来場

川崎市在住、在勤の方を対象にした映画『学校をつくろう』の試写会が1月24日、川崎市アートセンターで開催された。市民ら1000人が来場した。

上映に先立ち、室井義雄副学長が「ほのぼのとして、時に涙を誘うような素晴らしい映画になりました。専修大学の歴史だけではなく、当時の近代日本の姿を描き、大学とは何か、学問とは何かを考えさせてくれる作品です」とあいさつ。



あいさつする室井副学長。左は神山監督

監督の神山征二郎さんは「幕末から明治の初頭の激動の時代に生きた、若者4人の強い情熱を感じ取っていただきたい」と語った。

興克樹さんが「よみうり写真大賞」受賞

鹿児島県奄美市の自然写真家・興克樹さん(平5文)が第32回「よみうり写真大賞」ニュース&ドキュメンタリー部門大賞に輝いた。興さんは昨秋の豪雨の被害を発生時から継続して記録し続けた4面に記事。



奄美豪雨で被害を受けた「サンゴ」(上)と土砂崩れの現場(興さん撮影) (写真提供:読売新聞社)

ホンヨモセセッション 中・高校生読書のつどい

本に関心がある中・高校生を対象にした「ホンヨモセセッション」中・高校生読書のつどい(毎日新聞社など主催)が1月10日、専修大学神田キャンパスで100人の聴衆を集め開催された。



読書の魅力について語り、セッションでは角田光代『対岸の彼女』、谷川俊太郎の詩選集、万智『サラダ記念日』など華恵さんの好きな小説や詩、短歌の朗読も行った。会場を提供した専修大学は、特別協賛として同セッションに参加。映画『学校をつくろう』の公開を前に予告編を放映し、PRチラシを配るなど宣伝に努めた。

3面に映画『学校をつくろう』記事